

第6学年 体育科学習指導案

令和2年11月20日（金）第5校時 体育館
在籍児童数 男子16名 女子20名 計36名
香南市立野市小学校 教諭 岡田 翼

1 単元名 「ミニバスケットボール」（Eボール運動 ア ゴール型）

2 運動の特性

(1) 一般的特性

○バスケットボールは、攻守入り乱れ型のボール運動であり、点数を取り合って勝敗を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

○ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

(2) 児童から見た特性

ボール運動の楽しさや喜びを感じる要因	ボール運動を遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none">・パスやドリブル、シュートができるようになること・ボール操作とボールを持たないときの動きのポイントがわかること・自分やチームの課題に合った練習をすること・チームで練習を一緒にしながら動きのよさを確かめ合ったり認め合ったりすること	<ul style="list-style-type: none">・ボールに対する恐怖心をもっていること・ルールが難しいと感じること・チームの中での役割が分からないこと・チーム内の意欲に差が生じること・他者や他のチームと比べられてしまうこと

3 児童の実態

(1) 知識・技能

平成31（令和元）年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、特に「反復横跳び(敏捷性)」、「ソフトボール投げ(投力)」の得点が男女共に低かった。休み時間にサッカーや鬼ごっこなど、体を動かして遊んでいる児童が多いが、ボールに触れる経験が少ないと考える。

本学級の児童は、5年生の時にハーフバスケットボールの学習をしている。ボール操作とボールを持たないときの動きによって、攻撃側にとって易しい状況の中でチームの作戦に基づいた位置取りをすることができるようになった。しかし、味方や相手が投げるボールに恐怖心を抱いたり、チームの中でなにをすればよいのかが分からなかったりするため、ゲームに意欲的に取り組めない児童も数名いる。

(2) 思考、判断、表現

6月に行った表現運動では、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表の仕方を工夫するために、グループの中で自分が考えたことを他者に伝える経験をしてきた。発表する自分達と観る仲間が楽しめるような表現にするというゴールを設定することで、音楽に合わせて動く方法や内容全体の流れを考えたりすることができた。しかし、自分の考えや意見を伝えることができず、特定の児童の意見に偏っているグループもあった。学級全体の場となると、自分の考えを言葉で伝えることを苦手としている児童もいる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

本学級の児童は、明るく活発な児童が多く、休み時間には外で元気に体を動かすことが好きな児童も多い。体育の学習においても、自分の課題に応じて練習の仕方や場を自ら選んで運動に親しむことができる児童が多い。しかし、勝敗にこだわりをもちすぎるあまり、チーム内の仲間とうまく関わることができなかつたり、助け合っってゲームをしたりすることが苦手な児童もいる。また、自分やチームの目標に向かって自分やチームの考えを工夫しながら粘り強く取り組む児童がいる一方で、途中で諦めてしまう児童も混在している。

4 教師の指導観及び研究テーマとの関わり

研究主題	「子どもの心に 火をつける 体育授業」 ～運動の本質的な特性や魅力に触れる楽しさを味わい、 資質・能力をバランスよく育成する指導の工夫～	
研究仮説 1	ボール運動の本質的な特性や魅力に触れさせ、一人一人が達成感を味わえるような授業づくりを行うことができれば、次への意欲をもって、運動や仲間と豊かに関わろうとする子どもの育成につながるであろう。	
手立て1 言語活動 の設定	主	単元構成図を提示し、ゴールイメージの共有を行う。
	思・判・表	ホワイトボード、色付きマグネット、コート部屋の図等の、話し合い活動の際に活用できる道具を使うことで、言語活動の充実を図る。
手立て2 運動の特 性に応じた 動きづくり	知・技	毎時間の準備運動として、チームドリブル練習、パス練習、シュート練習、3対1パスゲームを行う。3対1パスゲームでは、数的優位を意識させるため、常にボール保持者の両隣に動くように意識させる。守備側は、ボールに対してプレスをかけ続けるようにさせることで、出し手側の技術の向上を図る。守備側がボールをカットした回数分、チームにポイントが加算されるようにすることで楽しみながら技能を高めていく。
手立て3 単元計画の 工夫	知・技 思・判・表 主	教材、ルールの工夫として以下の2つのことを行う。 ・チーム全員がシュートを決めたらボーナスポイントとして20点加算。(シュートを決めたら帽子の色を赤にする。) ・誰もが楽しくゲームに参加できるようにするために、ルールや練習方法について話し合う場を設定する。
手立て4 フィード バック(振り 返りと評価) デザイン	思・判・表	動きの伸び、学び方の高まり等、自他のよさや頑張りを振り返る時間を設定し、体育の学ぶよろこびを実感できるようにする。

5 単元の目標

(1) ミニバスケットボールの行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、チームの作戦に基づいた位置取りをするなどの簡易化されたゲームをすることができるようにする。

【知識・技能】

(2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) ミニバスケットボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場の用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

6 学習活動に即した評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習活動に即した評価規準	<p>①ミニバスケットボールの行い方について理解し、実際に動くことができる。</p> <p>②得点しやすい場所でパスを受けたり、シュートをしたりすることができる。</p> <p>③常に数的優位を作るために、意識して動くことができる。</p>	<p>①自分やチームの特徴に応じて、チーム全員がシュートを打つことができるような作戦を選んでいく。</p> <p>②誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイの制限や得点の仕方などのルールを選んでいく。</p> <p>③味方が受けやすいようにボールをつなぐことや、チーム全員がシュートを打つことについて、自己や仲間の考えたことを伝えたり書き出したりしている。</p>	<p>①課題解決に向けたチーム練習や簡易化されたゲームに進んで取り組もうとしている。</p> <p>②ルールやマナーを守り、助け合って運動をしようとしている。</p> <p>③用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。</p> <p>④お互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。</p> <p>⑤運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配っている。</p>

7. 指導と評価の計画（第6学年：8時間扱い）

<p>(1) 前学年までのボール運動系（ゴール型）の付けたい力と内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフコートバスケットボールの楽しさや喜びを味わい、ボール操作とボールを持たないときの動きによって攻撃側に易しい状況の中で攻守が入り混じった簡易化されたゲームをすることができるようにする。 ・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
--	--

(2) 指導と評価の計画

単元における活動の流れ		単元のめあてと学習の進め方を知る・ボールを持たない時の動きの分析 ※第1時はオリエンテーションを含む			全員がシュートを打つための作戦を考える			作戦を活用して対抗戦を行う	
時数		1	2	3	4	5（本時）	6	7	8
一単位時間の流れ	10	1. 単元のめあて・進め方を知る 2. プレイコート・チーム編成の確認をする 3. ボールに慣れる運動の行い方を知る ・ボールを使ったストレッチ ・ボールハンドリング ・ミラードリブル	1. ボールに慣れる運動を行う 必要な道具を準備して集合する ・ボールを使ったストレッチ ・ミラードリブル ・ボールハンドリング 2. チームドリルを行う ・チームドリブル ・パス練習 シュート練習 ・3対1パスゲーム（カットした回数分ポイント加算） 3. 学習のめあてを確認する（本時で大切にしたい仲間との関わり方の確認）	①（観察）	1. チームドリルを行う ・チームドリブル ・パス練習 シュート練習 ・3対1パスゲーム（カットした回数分ポイント加算） 2. 学習のめあてを確認する（本時で大切にしたい仲間との関わり方の確認） チーム全員がシュートを打てるために、2対1の状況を作ろう。	③（観察）	②（観察）	1. チームドリルを行う ・チームドリブル ・パス練習 シュート練習 ・3対1パスゲーム（カットした回数分ポイント加算） 2. 学習のめあてを確認する（本時で大切にしたい仲間との関わり方の確認） 4対4のゲームで、ボーナスポイントをゲットしよう！	②または③（観察）
	20	4. チームドリルの行い方を知る ・チームドリブル ・パス練習 シュート練習 ・3対1パスゲーム 5. メインゲームの行い方を知る ・4対4のオールコートゲーム（ルールの確認）	ボールをよくさわっている人の動きを分析しよう！ 4. 3対2のゲーム①（守備側ゴールマンなし）を行う ・タッチ数調べを行う 5. タッチ数が多い人の動きについて話し合う ・タッチ数が多い人のボールを持たない時の動きを考える ・得点を決めるための有効な動きについて共有する ・ボールを持たない時の動きを身につけるための練習を行う 6. 3対2のゲーム②（守備側ゴールマンなし）を行う	②（観察）	3. 3対2のゲーム①（守備側ゴールマンあり）を行う ・第4時…作戦を考える（コートの部屋図を活用）、第5・6時…作戦を選ぶ・話し合いで深める 4. ゲーム①の結果をもとにチームで話し合いをする ・ゲーム①の得点の集計、分析 ・チーム全員がシュートを打てるために、2対1の状況を作れたかを話し合う。→コートの部屋図を活用したチームミーティング ・話し合いをもとにゲーム②に向けたチーム練習を行う。 (例) トライアングルパス ゴール下からのシュート スピードパスからシュート 5. 3対2のゲーム②（守備側ゴールマンあり）を行う ・ゲーム②の得点の集計、分析	③（ワークシート, 観察）	②（観察）	3. チームで話し合いをする ・これまでの学習をふり返って、全員シュートを達成するための作戦を考える ・チーム練習を行う (例) トライアングルパス ゴール下からのシュート スピードパスからシュート 4. 4対4のゲーム①を行う ・8チームの総当たり戦 ・攻撃4分、守備4分 ・全8試合	①（観察）
	40	6. 学習の振り返り ・本時のめあての成果 ・メインゲームでの課題を共有 ・単元計画の確認	7. 学習の振り返り ・本時のめあての成果と課題について振り返りをする ・学び方、関わり方のよさについて共有する ・単元計画の確認	④（観察）	6. 学習の振り返り ・本時のめあての成果と課題について振り返りをする ・学び方、関わり方のよさについて共有する ・単元計画の確認	②（観察）	①（観察）	5. 学習の振り返り ・本時のめあての成果と課題について振り返りをする ・学び方、関わり方のよさについて共有する ・単元計画の確認	
	評価の観点	知識・技能			①（観察）		③（観察）	②（観察）	
	思考・判断・表現		②（観察）		③（ワークシート, 観察）			②（観察）	①（観察）
	主体的態度	⑤（観察）	③（観察）	④（観察）			②（観察）	①（観察）	

<p>(3) 本単元終了時のめざす児童の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニバスケットボールの行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、チームの作戦に基づいた位置取りをするなどの簡易化されたゲームをすることができる。 ・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・ミニバスケットボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場の用具の安全に気を配ったりすることができる。
<p>(4) 次学年でのボール運動系（ゴール型）の付けたい力と内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マークされていない味方へパスを出したり、パスを受けるためにゴール前の空いている場所への移動をしたりすることができるようにする。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・運動に積極的に取り組み、フェアなプレイを守ったり、作戦などについての話し合いに参加したりすることができるようにする。

8 本時の学習と指導（5／8時）

(1) ねらい

・ 数的優位を作り、シュートを打つことができるようにする。

【知識・技能】

・ 自分のチームにあった作戦を選択し、自らの役割を考え、仲間に伝えることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

・ ルールやマナーを守りながら仲間と助け合って練習やゲームに進んで取り組んだり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

※本時では、（知識・技能）を主として評価する。

(2) 準備物

バスケットボール、ビブス4色、得点板、タイマー、作戦用ホワイトボード、色付きマグネット、振り返りシート

※新型コロナウイルス感染症予防対策として、授業前後の手指・道具のアルコール消毒を入念に行う。体育館の常時換気も行い、対策を十分にとることとする。

(3) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 10分	1. 準備体操・ストレッチ、チームドリルをする。 ・ ドリブル練習 ・ パス練習（ノーバウンド・ワンバウンド） シュート練習 ・ 3対1パスゲーム（カットした回数分ポイント加算） 2. 本時のめあてを確認する。	○チームリーダーを中心にチームの中で準備体操・ストレッチを行う。 ○チームドリルでは、パスゲームでパスカットをした回数分をメインゲームでのポイントに加算していく。 ○パス練習とシュート練習は並行して行う。 ○前時の児童の振り返りから、数的優位を生かして簡単にシュートが打てるための攻撃パターンを紹介する。 ○めあて・学習の流れ・ルール等を提示し、学習の見通しが持てるようにする。
	チーム全員がシュートを打てるために、2対1の状況を作ろう。	

<p>展開 25分</p>	<p>3. 3対2のゲーム①を行う。 ※攻守固定, 守備側ゴールマン2人 攻撃3分, 守備3分 計6分 ・提示された作戦の中から自分たちのチームにあった作戦について話し合いゲームを行う。</p> <p>4. ゲーム①の結果をもとに話し合う。 ・児童からの気づきを共有する。 ・教師からの助言を聞く。 ・チームで話し合う。 ・ゲーム②に向けたチーム練習を行う。</p> <p>5. 3対2のゲーム②を行う。 ※攻守固定, 守備側ゴールマン2人 攻撃3分, 守備3分 計6分</p>	<p>○課題達成に向けた作戦を考えやすいように攻撃パターンを選択できるように提示する。 ○コートの一部屋図やマグネットなど話し合いに活用できるものを用意する。</p> <p>○ゲーム①の得点を表にまとめて提示し, 全員シュートができたのか確認していく。 ○2対1の状況を作るための動きやポイント等を教師が問いかけて気づきを共有する。 ◆味方が受けやすいようにボールをつなぐことや, チーム全員がシュートを打つことについて, 自己や仲間の考えたことを伝えたり書き出したりしている。(観察・ホワイトボード)</p> <p>○ゲーム①の結果をもとに, 対戦を組み直してゲームを行う。 ○ゲーム①での課題点を意識しながら作戦を考えたり, そのための声かけ(助言)をしたりしているチームを賞賛していく。 ◆常に数的優位を作るために, 意識して動くことができる。(観察)</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>6. 学習を振り返る。 ・振り返りシートへ記入。</p>	<p>○ゲーム②の結果を表にまとめ, 本時のめあてが達成できたのか振り返る。 ◆常に数的優位を作るために, 意識して動くことができる。(ワークシート) ●本時の児童の姿から, 体育の見方・考え方を働かせている姿を紹介し価値付けをする。</p>

